DAPCON Newsletter

デジタルアーカイブ推進コンソーシアム Newsletter

No. 07

CONTENTS

パイロット事業：
「デジタルアーカイブを通じた地方創生」の検討状況

早稲田大学演劇博物館デジタルアーカイブの歴史と現在
岡室美奈子　早稲田大学坪内博士記念演劇博物館館長

活動予定

トピックス

デジタルアーカイブ推進コンソーシアム
DAPCON

NEWS

パイロット事業:「デジタルアーカイブを通じた地方創生」の検討状況

ニューズレター No.2 にて掲載した、デジタルアーカイブ推進コンソーシアムパイロット事業案の検討状況について、ご紹介いたします。

地方創生とデジタルアーカイブの課題、および解決に向けた考え方

地方創生とデジタルアーカイブの課題として、下記が挙げられます。

- デジタルアーカイブ事業は地方自治体での単年度予算では継続が難しく単発で終わってしまう。
- 地域文化の資源化や観光事業は地方自治体単独では限界があり、もっと広いエリアで連携する必要がある。
- 文化視点（文化庁）あるいは経済視点（経産省）といった括りでは地方創生事業は難しい。
- 一過性のビッグデータ活用だけでなく、長期に亘るアーカイブデータ活用が必要である。

これらの課題を解決するためには、組織を横断的に連携することや、長期的にデジタルアーカイブを活用する仕組みづくりが必要です。

目的と期待効果

当パイロット事業の目的は、わが国の文化資源を発掘し観光資源化するために、日本全国の地域文化資源をデジタルアーカイブ化するとともに集約・価値化を行い、地方創生のための利活用コンテンツとして地域経済活動に貢献することです。また、DAPCONがその手法と運用の標準化を図り、単独ではハードルの高い自治体でのデジタルアーカイブ事業のネックを解消したいと考えています。

そしてその期待効果として、下記が挙げられます。

〈国にとって〉
- 地域文化資源を掘り起こし、観光資源化することにより地方創生を加速化できる。

〈地方自治体にとって〉
- 予算のつきにくいデジタル化事業を標準的な手法で効率よく実行できる。
- DAPCONとDA学会の支援により、地域アーカイブの人材発掘と育成が可能になる。

〈ユーザ（利用者）にとって〉
- 自治体単独の事業でなく日本全国規模の事業ゆえに、「日本の地域文化観光資源」を網羅的に利用できる。（多角的な閲覧鑑賞が可能になる。）

〈デジタルアーカイブ関連事業者にとって〉
- 共通のプラットフォームと業務フローが適用できるため、効率よく品質の高いサービスを提供できる。

パイロット事業の概要

地域文化資源デジタルアーカイブのポータルサイトを構築し、地方自治体・地方企業・地方大学・小中高などの様々なコンテンツホルダーから、地域文化資源を収集・蓄積していきます。そして蓄積された地域文化資源を学校教育や観光事業などに活用し、地域創生に繋げていきます。

また、対象地域として岐阜・長野・山梨・静岡・富山の５県が挙げられていましたが今回は岐阜県を対象地域とすることになりました。

岐阜女子大学との連携

岐阜女子大学は、デジタルアーカイブ専攻を設置するなど以前よりデジタルアーカイブに積極的に取り組んでおり、高校生や大学・大学院・一般の方を対象にした講習会やデジタルアーカイブコンクールを主催しデジタルアーカイブの普及を推進しています。

平成29年度から５年間にわたる文部科学省の私立大学研究ブランディング事業「地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備」では、岐阜県の文化遺産や伝統文化産業等地域資源のデジタルアーカイブ化に精力的に取り組んでいます。

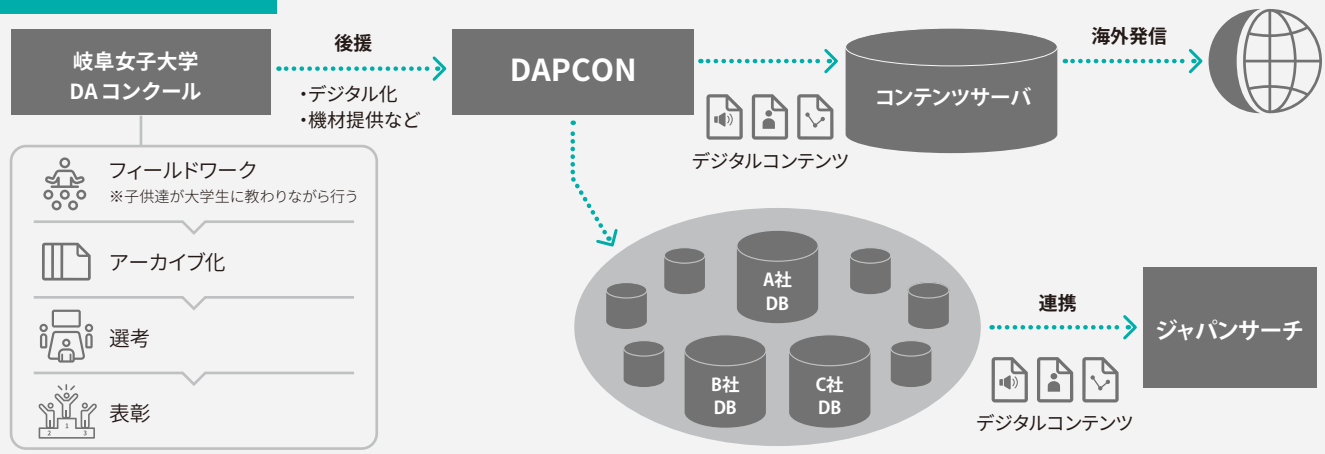
さらに、これまでデジタルアーカイブ化された全国各地の地域資源をWebページや冊子「おうらい」で紹介し、沖縄修学旅行生への旅行中の学習サポートに役立てるなど、多数の活用実績を残しています。

上記のように先進的にデジタルアーカイブに取り込んでいる岐阜女子大学と連携し、パイロット事業を進めていくことを検討しています。

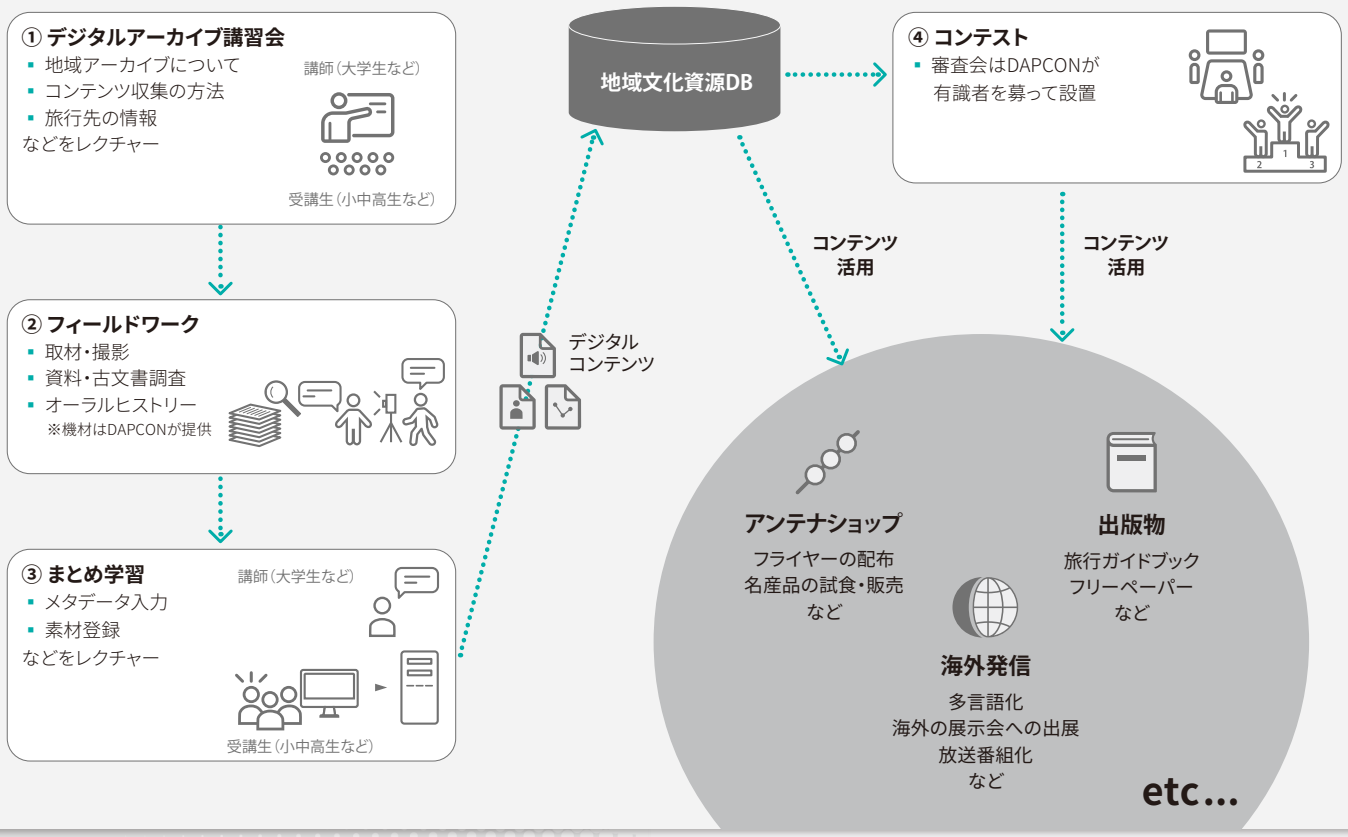
今後の進め方

DAPCON主催の各委員会やセミナーなどを通じて得た意見等を取り込み、パイロット事業企画書のブラッシュアップを行い、関係各省庁に提言してまいります。

岐阜女子大学との連携イメージ



具体的な取り組み検討案



※検討段階の企画案ですので、ご意見やアイディアなどございましたら事務局までご連絡いただけますと幸いです。

NEWS

会社紹介　DAPCONのメンバー企業をご紹介します。

大日本印刷株式会社

デジタルアーカイブソリューション

70年代から印刷の生産技術として開発していた写真のデジタルスキャン、文字組版のデジタル化、CG製作、DTP、原稿管理システムやDB設計がそのままデジタルアーカイブに応用でき、お客様のデジタルアーカイブ構築をお手伝いしてきました。数千社から企業史資料編纂をご依頼いただく中で企業史資料のDBに特化したデュアルシーブを開発し年史刊行とデジタルアーカイブ構築、デジタルデータを活用したWeb公開、社内研修用コンテンツ製作や企業資料館設計等、目録作りからデジタル化そしてその利活用までを提供しています。

また、アート分野では、お客様のカタログやカレンダー製作のための高精細撮影、カラーマネジメント、ライセンス管理の技術とノウハウを基にDNPイメージアーカイブ事業を展開し、東京国立博物館イメージアーカイブをはじめ博物館・美術館様の画像管理業務を代行しています。

自社の取り組み

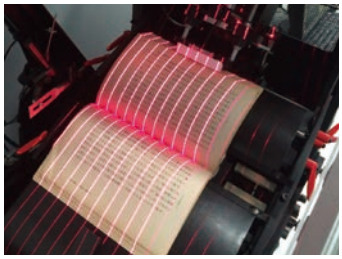
DNP文化振興財団を設立し日本のグラフィックデザインのデジタル化と保存研究に取り組んでいます。また、フランス国立美術館連合（RMN）の大量のポジフィルムのデジタル化とDB構築・公開施設（サイバールーヴル）に端を発し、ルーヴル美術館との共同事業ルーヴル-DNPミュージアムラボではデジタルデータの利活用を、続くフランス国立図書館（BnF）では天球儀地球儀の超高精細3Dデータ化と電子図書館GALLICAでの公開、フィンランド国立美術館（ATENEUM）と美術鑑賞が人へ与える影響を検証するプロジェクトを実施しています。

2014年からは、明日の京都 文化遺産プラットフォーム様と共に、京都の重要文化財を中心に高精細映像アーカイブ化と襖絵・屏風を超高精細撮影・複製を行う伝匠美プロジェクトを、2015年には東京大学大学院情報学環に寄付講座を設け、主に学術コンテンツのデジタルアーカイブと利活用を研究しています。

ルーヴル-DNPミュージアムラボ

BnF×DNPミュージアムラボ

京都アーカイブ


高速ブックスキャナ（東京大学-DNP共同開発）

(C)Photo DNP

早稲田大学演劇博物館デジタルアーカイブの歴史と現在

岡室美奈子　早稲田大学坪内博士記念演劇博物館館長

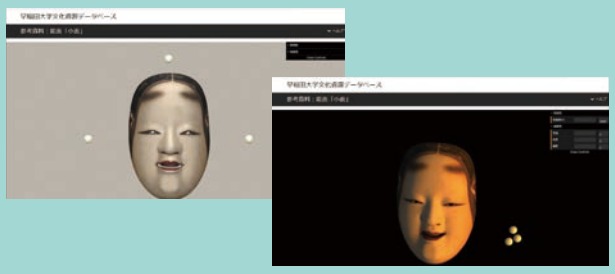
早稲田大学演劇博物館は、1928年に坪内逍遙が創立し、今年開館90周年を迎えた。アジアで唯一の演劇専門総合博物館としての博物館業務だけではなく、演劇・映像の研究拠点として、また、地域文化振興の拠点としても多彩な活動を展開している。なかでも、演劇博物館がとりわけ力を入れているのがデジタルアーカイブである。

演劇博物館がデジタルアーカイブ構築に向けての取り組みを始めたのはかなり早く、1995年に遡る。この年、演劇博物館はいち早くホームページを開設し、「電子博物館」プロジェクトを立ち上げ、インターネットを使った演劇情報の発信拠点となることを目指した。そして1997年には「錦絵検索システム」を公開し、2001年には演劇博物館デジタルアーカイブが本格的に始動する。その後データベースを着々と拡充し、「演劇情報総合データベース――デジタルアーカイブ・コレクション」として発展させてきた。さらに、2017年には、演劇博物館が先導してきたシステムを学内の共通プラットフォームへと開発し直し「早稲田大学文化資源データベース」として拡張することによって、より柔軟性をもった検索、閲覧が可能になっている。

デジタルアーカイブ構築において公的研究費の助成は不可欠だった。演劇博物館は、1998年度から2007年度までの学術フロンティア事業、2002年度から2006年度までの21世紀COE事業、2007年度から2011年度までのグローバルCOE事業、2009年度以降の共同利用・共同研究拠点認定および再認定とそれに関わる機能強化支援事業など、文部科学省の様々な研究事業に採択され、その活動の一環としてデータベースを整備してきた。そしてデジタルアーカイブ構築と公開にもっとも有益だったのは、2004年以降、10年以上にわたって採択された日本学術振興会科学研究費研究成果公開促進費「データベース」である。特に2010年度から14年度までの5年間は重点データベースに採択され、演劇博物館デジタルアーカイブ・コレクションは飛躍的に発展する。

現在、「演劇情報総合データベース」では、「舞台写真」「映画写真」「演劇上演記録」「浄瑠璃本」「歌舞伎台本」「映画館プログラム」「幻燈」など、演劇博物館ならではのデータベースがおよそ30種類の閲覧可能となっているが、なんといっても世界的によく知られているのは「浮世絵データベース」である。ここでは、世界有数と言われる演劇博物館の役者絵コレクションが自由に検索でき、英語版も展開しているため海外からのアクセスも数多い。

近年力を入れているのは、能面など仮面を中心とする3Dデータベースである。開発当時の担当者だった土屋紳一を中心に、公開当初からブラウザ上で閲覧が可能な方法を開発し、既存の3D表示サービスを利用することなく独自に運用している。演劇の特徴を生かし、光源の位置や背景の色や明暗などを変更して様々な鑑賞環境をシミュレーション出来るようになっているところに特色がある。たとえば能面であれば、画面上で自在に向きを変えてみることで能面のさまざまな表情を楽しめるだけでなく、夜間の薪能で上演した場合の薪が燃える炎に照らされた状態を再現することも可能である。



このように演劇博物館のデジタルアーカイブは、専門博物館としての特性を活かしながら常に新たな展開を模索し、豊かな演劇映像文化の発信に努めている。

現在抱えている課題は、予算・人材・著作権という、多くのデジタルアーカイブと共通するであろう問題をいかに乗り越えていくかである。国家的な予算の獲得や法改正など、デジタルアーカイブ学会や他機関と協働しつつ、クリアしていきたいと考えている。

活動予定

	2018		2019		
	11	12	1	2	3
パイロット事業	地方自治体、大学等との連携準備				
データ活用の持続可能性検討委員会	スキーム検討、企画書作成				
連続セミナー	2018年度連続セミナー（全5回終了）				
デジタルアーカイブ推進基本法	国会審議状況に応じて、デジタルアーカイブ学会と連携して活動				
関係省庁や業界団体との連携	内閣府、総務省、経済産業省、観光庁、文化庁、東京文化資源会議、デジタル文化財創出機構等と連携して活動				

トピックス

「テキストデータ再活用推進検討会」の新設が幹事会で承認されました。
書籍・書類など蓄積されている様々なテキストデータを再活用し
新たなビジネスを創出するための制度整備に関する検討が開始されました。

▶9/28　DAPCON：第2回幹事会（2018年度）開催
▶10/2, 11/6, 12/3　DAPCON：データ活用持続可能性検討委員会
▶10/12　DAPCON：第4回デジタルアーカイブ連続セミナー（第2期）
講師：福井健策氏（骨董通り法律事務所 弁護士）
テーマ：「デジタルアーカイブに関わる最新動向：法律編」
▶10/29,30　DAPCON：デジタルアーカイブ連続セミナー（第2期）箱根合宿
テーマ：「講義とグループ討論：デジタルアーカイブ事業創出」
▶11/3　長尾真（DAPCON顧問、JSDA会長）文化勲章受章
▶11/8　DAPCON：第5回デジタルアーカイブ連続セミナー（第2期）
講師：吉見俊哉氏（東京大学情報学環教授）、長丁光則氏（DAPCON事務局長）
テーマ：「講義とグループ討論：産学連携のあり方」
▶11/9　DAPCON：産業賞作業部会
▶11/12　DAPCON：第1回テキストデータ再活用推進検討会

デジタルアーカイブ推進コンソーシアム Newsletter
No. 07 | 2018.12.13
DAPCON ホームページ
https://dapcon.jp/
お問い合わせ
デジタルアーカイブ推進コンソーシアム事務局　TEL: 03-5841-0377